

二世豊竹古靱大夫床年譜 (六)

轉載不許

年

次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

五月十三日初日
(三十四日間)

假名手本忠臣藏
文 樂 座
大序より兩國橋
勢揃之段迄

六月廿三日初日
(十六日間)

前 出世太平記 同 座
中 紙子仕立兩面鑑 大序より九ツ目迄
次 岸姫松響鑑 兵衛屋敷之段
生 寫朝顔話 宿屋之段

古靱大夫本興行より序切語となる
(初役)殿中双傷之段切
三味線 三世鶴澤清六
(初役)道行戀初旅二枚目
三味線 三世鶴澤清六

古靱大夫、音聲を痛め道行のみ源大
夫代役となる。
竹本攝津大榎七十七歳にて山科之段
を勤む。合三味線松屋町六世豊澤廣
助亦七十一歳の老齡なり。兩師共精
力盡んたるが如し。攝津大榎の九段
目は明治十年五月一日初日の松島文
樂座が初演にて、今回は九回目なれ
ども、本藏の詞がどうか語れるや
うになりたりと話さるゝを古靱大夫
聞きて淨瑠璃修行之容易ならざるを
痛感せり

役場 (初役)小栗柄村之段奥
三味線 三世鶴澤清六
(初役)大字屋之段中
三味線 三世鶴澤清六

是にて夏休

年次	劇場並に狂言	古観大夫に関する記事	淨瑠璃界一般
大正元年 九月廿二日初日 (二十一日間)	前 戀女房染分手綱 文樂座 中 染模様妹春門松 生玉之段 切 國性爺合戦 榎門之段 竹林虎狩之段	役場 (初役)坂ノ下之段 三味線 胡弓 野澤 吉雄 坂ノ下之段慶政の歌ふ唄は從來地唄 「菊の露」なりしも、「虫の音」を習ひて、これを用ふ	七月二十三日午前六時卅分、古観大夫匠七世竹本綱大夫(前名津大俗に法善寺師匠、本名櫻井源助)宅にて歿す。同日二十五日葬儀行年七十四。法名雲龍軒響津海居士。墓所は四天王寺大師堂北側墓地あり。墓地上入り西へ突當り北へ折れたる所東にして前名を刻む。石と都大宮綾小路法善寺に先祖の碑あり。並びて七世竹本綱大夫の碑あり。
十月二十日初日 (三十日間)	同座 前 奥州安達原 大序より袖袂 中 攝州合邦辻 祭文之段迄 切 明烏六花曙 合邦住家之段 山名屋之段	役場 (初役)袖萩祭文之段次(矢ノ根) 三味線 三世鶴澤清六	天月三十日午前三時四十分、明治天皇崩御。七月三十一日より大正元年と改元さる。
十一月廿二日初日 (五日間)	竹本越路大夫一座 岡山 千歳座	古観大夫参加	是にて冬休

十二月二日
初日
(七日間)

東京 新富座

大正二年(廿六歲)
一月二日
初日
(三十日間)

文樂座

二月十六月初日
(二十八日間)

同座

前 繪本太功記 大序より
中 近頃河原達引 四條河原之段迄
切 廓文章 吉田屋之段

四月一日
初日
(五十一日間)

同座

義經千本櫻 大序より
鶴山古跡松 豊成館之段迄

六月一日
初日
(二十四日間)

同座

前 日吉丸稚櫻 大序より
中 心中天網嶋 紙屋内之段
次 楠昔嘶 徳太夫住家之段
切 鳴響安宅新關 勸進帳

同座

六月一日
初日
(二十四日間)

同座

前 太平記忠臣講釋 大序より
中 傾城阿波鳴戸 十郎兵衛
次 近江源氏先陣 和兵衛上使之段
切 壺坂雲嶺記 澤市住家之段

役場 (初役)妙心寺之段奥
三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役)椎ノ木之段奥、カタリ
三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役)紙屋内之段中(デヨン
ガレ)
三味線 三世鶴澤清六

古親大夫、本興行にて初めて附物を
語る
役場 (初役)澤市住家之段切
三味線 三世鶴澤清六
ツレ 野澤勝平
清六、九日 目より病氣の爲め休場、
叶替り役。

鶴太郎、四世鶴澤叶を襲名。
大糸、三世鶴澤燕四を襲名。
鷺の森之段九世燕四の合三味線豊
澤廣作、病氣の爲め、四世鶴澤叶代役
を勤む。

三月二十五日、野澤吉松(本名中村
榮三郎)歿す。墓所は法名融覺榮光禪定門村
行年三十七。墓所は大王寺生玉前町
宗憲院にあり。三味線をよくせしも
亦琴の名手なりき。

稱津大樑隱退披露興行なり、中狂言
の前に口上幕を挿加ふ。役場、中狂言
夫住家之段三味線六世廣助、稱津大
樑當年七十八歳。廣助は七十二歳初
日より千秋楽迄大入替員。五月二日
開催す。縁遊園地に於て當祝運動會を

六月十七日、豊竹和國大夫東京にて
歿す。元二世歌助と呼ぶ三味線なり
し。後、大樑大夫となり、和國大
夫、後に曉大夫と改め、再び和國大
夫と稱す。法名蓮華院法臺日成信士
行年七十六。本興行限り九世竹本樑大夫隱退
是にて夏休

年次	劇場並に狂言	古軼大夫に關する記事	淨瑠璃界一覽
七月一日初日 (七日間) 七月十五日初日 (七日間) 七月廿七初日 (六日間) 八月二日初日 (五日間) 八月八日初日 (五日間) 八月十六日初日 (五日間) 八月廿二日初日 (五日間) 八月廿八日初日 (五日間) 九月十二日初日 (七日間) 九月二十日初日 (二十六日間)	竹本城路大夫一座 京都 京都座 博多 壽座 熊本 大和座 久留米 惠比壽座 門司 凱旋座 下關 辨天座 廣島 壽座 岡山 千歳座 神戸 大黒座 前 祇園祭禮信長記 大序より三段目迄 中 源平布引瀧 音羽山之段より紅葉山之段迄 切 新版歌祭文 野崎村之段	古軼大夫、清六出勤 役場 (初役) 高田之段奥(上かんや) 古軼大夫音摩を痛め、初日より中日迄休演。	七月十一日、六世豊竹駒大夫(本名川崎宗太郎)歿す。元廣見大夫、後名を常大夫と改名、更に六世駒大夫名跡を襲名。法名常住院宗心日法信土行年六十一。墓所泉州貝塚妙泉寺にあり。 七月三十日、三世竹本大隅大夫(本名井上重吉)臺灣臺南にて歿す。初世春子大夫、後に三世大隅大夫名跡を襲名。法名宣暢院響流音占土行年六十。墓所大阪市東區小橋寺町寶樹寺本堂前にあり。 勇造、五世鶴澤文藏を襲名す。 二世豊竹呂大夫出座。